

fahrrad.markt.zukunft. (自転車市場の未来展) 参観報告 及びベルリン市内自転車小売店調査

1. fahrrad.markt.zukunft. (自転車市場の未来展ーベルリン開催)

昨年まで標記展示会ドイツ東部地域の開催会場は、ライプツィヒであったが、本年から場所をベルリンに変え新たな出発となった。

【fahrrad.markt.zukunft. (Berlin)】

主催： Messe Berlin、velokonzept saade GmbH

会場： Messe Berlin

会期： 自転車展；2009年11月28日(土)～29日(日) 10:00～18:00

ボート展；2009年11月25日(水)～29日(日)

使用ホール： 自転車展；ホール18 3,800㎡、ボート展；計10ホール 50,500㎡

入場者数： ※66,000人(前年63,123人) ※自転車、ボート両展合計、前年はボートのみ。

出展社数： 自転車展72社、ボート展635社



メッセ・ベルリン



ホール18入口

ベルリン会場は、自転車単独の展示会ではなく、船舶とその関連商品の大規模展示会「BOOT und FUN BERLIN」との合同開催であった。ボート展は、計10ホールにも展示会場が広がりメッセの大多数を利用していただのに対し、自転車展の展示ホールはわずか1か所であったが、会場となったホール18はメッセ入口近くの便利な位置にあった。

出展社リストから集計すると、自転車関連企業の出展社は72社であった。本年はベルリン初開催のため、昨年のライプツィヒと単純比較はできないが、ドイツ東部で自転車展を成功させる場合、最大の都市ベルリンへの開催地変更は必然であったといえる。さらに今回は大規模展示会共催の相乗効果により、自転車展のホール内も常に人で溢れ活気に満ちていた。



会場内の様子



自転車小売店ブース

当地でも電動アシスト車試乗コースがホール中央に位置しており、フランクフルト会場で見られたものと同じ設備を使用していた。電動アシスト車のブランドとしては、KTM、ラレー、フライヤー、コガ・ミヤタ、R&M、ダイヤモンドなど、フランクフルト会場と同様な顔触れのほか、地元出展社を通じ数社の電動アシスト車出展も見られた。特に自転車小売店のブースでは、電動アシスト自転車の旧モデルに 999 ユーロ (130,869 円) の特別価格が提示され、来場者の注目を集めていた。

一般のシティ車やトレッキング車も多く見られたが、その中でも特にクラシカルな装いのシティ車が目についた。現地小売店や代理店を通じて僅かであるがラピエール、スペシャライズドなどのスポーツ車も見られ、更に部品、付属品ではライトの B&M、タイヤのコンチネンタル、鍵の ABUS なども参加しており、フランクフルト会場より出展内容は幅広く充実していた。



電動アシスト車



クラシカルなシティ車

なお、今回は地元ベルリンでケイリン愛好者が集うカフェを営む「Keirin Cycle Culture Café」が出展していた。ケイリン用フレームや NJS 認定部品のペダルやハンドルなど出展しブースは盛況であった。従来、ベルリンでは街乗りシングルレーサーの需要があり、昨今の同車種のブームも踏まえ、日本製部品への関心が更に高まる可能性もある。

同自転車展は本年同様、ボート展と共催で 2010 年 11 月 27～28 日に開催予定である。



ケイリンカフェのブース

2. ベルリン市内自転車小売店調査

調査店舗①

高級な MTB、ロードレーサーのスポーツ車は、キャノンデールがメインで、他に FELT など合計 50 台程展示されていた。中には 6,000 ユーロ (786,000 円) に達する高額品もあった。入門車から中級車は、メリダ、センチュリオンを主体に 100 台程展示されていた。近年流行しているシングルギアの街乗りトレックレーサーも 15 台程数種のブランドが置かれ充実していた。シティ車、トレッキング車はガゼレを中心に 50 台程、電動アシスト車はガゼレ 1 台のみの展示であった。店舗規模に比べて電動アシスト車の扱いは少なく、スポーツ車中心の大型小売専門店といえる。



調査店舗①



付属品売り場

また、同店では新車購入の際、購入価格に応じて最大 200 ユーロ (26,200 円) まで下取りする、「買い替え奨励策」を実施しており、そのポスターが入口ドアに掲げられていた。店内には中古スポーツ車も 10 台程販売され、どれも 500～700 ユーロ (65,500～91,700 円) 前後という値段が付けられ、例えば 10 年前位のキャノンデールの MTB は 600 ユーロ (78,600 円) で売られ、中古車でも相応の価格で販売できる程、スポーツ車の付加価値は高いことも伺える。



シティ車売り場



シングルスピードも豊富



中古車コーナー



買い替え奨励のポスター

調査店舗②

店頭にはキャノンデールなどを中心に 40 台程の MTB やトレッキング車が並べられており、店内はクロモリパイプのフレームが 50 本近く吊るされ、完成車もほとんどがトマシーニ、チネリ、ジオス、ウィリエール等、イタリアブランドを中心としたクロモリフレームのロードレーサーなど、店内は 80 年代～90 年代の一昔前のスポーツ車が 70 台程あった。



調査店舗②



店頭の販売



数多く吊るされたクロモリフレーム



店内の様子



店内には古いスタイルのスポーツ車が多い



同店オーナーは日本製パーツにも詳しく、当会の JBG 作成頒布の現状を伝えたところ、大いに関心を寄せた。同店は MKS の金属ペダルは既に取扱っており、また、数台の完成車に装着されたチネリのステムを例に示し、日本製パーツの中でも特にハンドルやステムに興味を持っていた。

さらに最近仕入れたイタリア製のシックな茶色皮のシューズ、トリコットのウエアなどの現物を交えて熱心に語りかけ、一つ一つのパーツや付属品にこだわりを持つ他の自転車小売専門店とは一線を画す強い個性を感じた。

調査店舗③

店舗②と同じ最寄り駅にある BICO (自転車関連製品の共同仕入れ組合) メンバーの店舗で、MTB はチェッカーピッグ、トレッキング車は BBF が中心であった。一部高額品として GHOST があるが、主要価格帯は 700~1,000 ユーロ (91,700~131,000 円) となっており、欧米有名スポーツ車ブランド、電動アシスト自転車の取り扱いもなかった。店内には 150 台程度の在庫、床がすべてフローリングとなっており、比較的自転車の展示にも余裕があり見やすい配置となっていた。奥には十分な整備場も備える、住宅街にある中型の自転車小売専門店であった。



調査店舗③



余裕ある展示スペース



整備中の自転車



トレッキング車売り場

調査店舗④

シティ車、トレッキング車はビクトリアを中心に 30 台程展示されており、電動アシスト自転車や高額なスポーツ車の展示はなかった。売り場面積の割には幼児車、子供車とその関連部品や付属品の品揃えは豊富であった。住宅街の中に位置し、地域住民の親子などを対象にした小型店舗であった。



調査店舗④



シティ車、トレッキング車売り場



子供車、幼児車が充実



会計兼整備場

調査店舗⑤

ZEG（自転車関連製品の共同仕入れ組合）会員で、シティ車、トレッキング車はヘラクレスとペガサスがメイン、販売価格帯は、500～1,000 ユーロ（65,500～131,000 円）で店頭在庫 100 台程であった。スポーツ車は 50 台程、MTB は BULLS、ロードレーサーは STEVENS が中心で、更に高級車としてシンプロンのスポーツ車やトレッキング車の扱いもあり、ダホンの折りたたみ車もあった。電動アシスト車はダービーサイクルのサイクルの RIXE が 2 台展示されていた。



調査店舗⑤



会計と部品コーナー



店内の様子



RIXEの電動アシスト車

参考1；店舗⑥

臨時休業のため内部を訪問できなかった。外から見る限りでは、店内20~30台程度、カゼレのシティ車、とトレッキング車が中心の小型店舗であった。電動アシスト車は見当たらなかった。

参考2；店舗⑦

スポーツ車はトレック、トレッキング車はダイヤモンドと、トレック関連ブランド専門店、在庫は小さな店内に50台程であった。訪問時には接客中で多忙な様子であったため、店内見学のみ留めた。



店舗⑥



店舗⑦

以上

(デュッセルドルフ事務所)